



## ～インド、マハラシュトラ州のマユリちゃん的生活。～

インドマハラシュトラ州タレガオン地区に、ICAジャパンが1999年に設立したEEC（環境教育センター）があります。そこでは、様々なプロジェクトの研修やトレーニングが行なわれています。この施設の管理人としてバル一家が働いています。写真はバル家の長女マユリちゃん。中学生の彼女は、インドの踊りとコーラム※を描くのが得意です。（※インドの家の床や玄関に米粉で描かれる幾何学的デザ

イン画、女性の花嫁修業の一つである。）

研修で滞在する人たちの部屋の掃除や食事の準備、ティータイムのチャイの用意もマユリちゃんは自らすすんでしています。写真は、日本電気株式会社（NEC）と株式会社GRAの協力によって始まった新たな事業のイチゴ栽培のお手伝いをしている様子です。いつも元気な明るい笑顔で人々を迎えてくれる彼女は、いわばEECのマスコットの存在なのです。



お祭りの日のコーラムは特に豪華。

### ICA会長挨拶 橋場 文昭



会長プロフィール  
立教大学卒。1974年米国シカゴのプロジェクト参加。帰国後、国内外の多くの企業・自治体・学校・団体などの地域開発・組織開発を支援。現在、立教英国学院常務理事。

### ICAは多様なプログラムを展開する経験豊富なNPOです。

ICAの日本での活動は1970年に始まり、すでに40年の月日が経ちました。ICAは、この間、米国シカゴの黒人スラム街における地域開発のプロジェクトで得た参加型手法の経験を生かし、世界各地で地域や組織の発展に取り組んできました。

ICAは小さな組織ではありますが、これまでのノウハウの蓄積や世界30カ国の国際的なICAグループのネットワークは、他のNPOに比べて決して劣るものではありません。最近、教育界を中心に「グローバル人材の育成」が叫ばれています。グローバル人材は、単に語学ができることではなく、異文化の理解や体験がとても重要であることは、皆さんもご理解いただいていると思います。

更に、人間としての哲学や教養もグローバル人材に欠かすことができません。ICAは、これらを含めて総合的に人材を育成していきたいと考えており、そのための多様なプログラムを用意しています。

「そこに働き、そこに生活する人こそ最大の資源である」というICAのモットーを今後も大切に、世界で起こる様々な問題に住民と一緒に考え、行動する団体であり続けようとしています。財政的には、必ずしも豊かな団体ではありませんが、ぜひとも皆さんのご支援とご協力をお願いする次第です。どうぞ、お気軽にICAの事務所にもお立ち寄りください。



### ビハール州での村落開発事業

ネパール隣インド北部のビハール州は、季節が冬に移り、年末から1月は寒過ぎて自治体が学校閉鎖命令を出した程で、午前中の濃霧と日中の寒風も相まって建設作業時間が制限されたり、冷害で作物に被害も出ました。2月は日中の日差しは暖かですが、日が暮れるとぐんと冷え込みます。事業地を訪れるベストシーズンは11月と2月で、他は蒸し暑くて眠れない酷暑です。

ICAが外務省草の根無償資金協力のサポートによりおこなっているこの事業では、6月に続き11月に日本から専門家達が訪れ、建設中のコミュニティーセンター3棟のチェック、リーダーシップ研修、コミュニティー開発講習、来年度に向けた準備調整を行いました。村には電気もホテルも無く、1時間離れた町ホテルに埃まみれで帰ってもお湯が出ず、頻りに停電するといった状況で、専門家の滞在も大変です。

11月にはヒンズー教の祭は更に頻繁に行われ、米とトウモロコシの収穫も重なり、村人は大忙しでした。そのなかで、村落開発委員会と女性自助グループのメンバーを中心に、毎日建設作業を確認したり、各種研修で村の課題と解決策を話し合って行動計画を立てたりと、私達の活動を通して、カースト集落を越えた交流を楽しめるようになりました。男性達は、水耕栽培(土も電気も使わず最低限の水量で収穫量が倍増する日本の農業技術)の研修に興味津々でトマトを栽培中です。

あえて大地主の邸宅に低カーストの村人を集め研修を行い、最低賃金ももらっていない管理人家族を雇って参加者の昼食を作ってもらうなど、権力者達と交流しつつ、村人間のカースト集落を越えた協力と自主的な生活環境改善を進めています。

### 外務省 NGO連携無償資金協力



水耕栽培のポットを作る村人たち



コミュニティーセンターの建設現場

### マハラーシュトラ州プネー県における農村地域住民のエンパワーメント強化と女性の地位向上事業

ムンバイから300キロ離れた地方都市プネ。10月からは乾期に入り、過ごしやすい季節です。11月13日～15日はディワリ祭とヒンドゥー教の新年のお祝い事があり、町中では電飾が灯され、花火も打ち上げられとても賑やかでした。ICAがJICA草の根技術協力の下、支援しているムルシ地区の村々では、このお祭りに合わせて村人たちがお菓子やスパイスを作成し、街のショッピングセンターで展示・販売を行いました。日本の年末を想像してもらうとわかりやすいように、この時期には、インド人は多くの商品を購入するため、村人たちが一生懸命作った商品もたくさん

売ることができました。目標の金額には達しませんでしたでしたが、村人は手にした現金で自分たちの新年を祝うために、家族に食べ物や贈り物を購入することができてとても満足そうでした。

12月には、日本電気株式会社(NEC)と株式会社GRAの協力によって始まった新たな事業の説明会が開催され、村人は興味津々に説明会に参加してくれました。理事長の佐藤も日本から参加し、村人と直接交流することで事業の進捗を確認することができました。次号ではこの事業について新しい情報をお送りできると思います。

### JICA 草の根技術協力



ショッピングセンターでの展示販売の様子



村の女性たちが作ったお菓子とスパイス



環境教育センターでのトレーニング

# フィリピン

ジャパン・プラットフォーム

## 台風による被災者の初動調査と物資配布

2012年7月にフィリピン、ルソン島中部を襲った台風サオラにより、首都圏マニラを中心に洪水被害が各地に出、総計50万人もの人々が自宅を追われ、避難生活を送らざるをえない状況になりました。そのためにフィリピン政府の要請を受けて、日本からもいくつかのNGOが被災者支援のために駆けつけることとなり、ICAは2008年の洪水支援に続き、再びフィリピンへ赴くこととなりました。(2012年8月22日から9月10日の20日間)

実際に活動を行ったのはマニラから45キロほど北に離れた郊外のマロロス市。マニラ湾に面していること、ルソン島の河川に囲まれたデルタ地帯であること、そして移民を中心とした貧困層が多くいることから洪水の被害も大きく、ここでICAは港湾部やマロロス市内のスラムなどを対象に3,500世帯の洪水被害者に食料などを配りました。

真夏の日本からモンスーンの時期のフィリピンへ初めて出た私、森口としては今回の支援での3週間弱の滞在が初めての東南アジアでの長期滞在中で、豊かな水産資源にめぐまれた環境を目にする半面、零細漁民や移民たちの生活の厳しい現実に直面もしました。また一方でフィリピンにおける洪水が、近年の国土開発の結果、さまざまな要因とともに現れた年中行事のようにあることにも、開発や支援の問題など深く考えさせられもしています。

今回のフィリピンの支援事業は、実施中に事故もなく、予定された世帯数への支援物資、また洪水被害を受けた地区の学校児童900人への学用品などの配布を無事に終え、9月10日に閉じることができました。支援事業のあり方はもちろん、フィリピンという国に触れた印象深い3週間でした。

『台風による被災者の初動調査と物資配布』  
(2012年8月22日～9月10日)



### 【おもな支援物資の内容】

- ・米
- ・インスタントヌードル
- ・インスタントコーヒー
- ・缶詰
- ・粉ミルク
- ・豆2種類
- ・学用品(靴、文具用品)



物資を配布したマロロス市内に住む一家

# ベトナム

トヨタ自動車株式会社

## ハノイ市における湖沼水環境改善および住民の環境意識向上プロジェクト



ホアンキエム湖に浮かぶ植栽いかだ

植栽いかだは富栄養化が進んだ湖の水中にある肥料分を栄養として育ち、それに伴い、湖水を浄化します。ICAがトヨタ環境活動助成プログラムの支援で行っているこのプロジェクトの波及効果として、現地の環境団体によって作られた植栽いかだが、ハノイの観光地で有名なホアンキエム湖に浮かんでいきます。次号では、さらに詳しくご紹介します。

# 東日本大震災復興支援

Japanese Disaster Relief Fund Boston

## 農業再建のためのワークショップ

ニュースレター37・38でもご紹介した通りICAは宮城・福島・岩手県において、ジャパンプラットフォーム、国連世界食糧計(WFP) Americas、Japanese Disaster Relief Fund Boston、そして多数の企業からご支援をいただき、食料品や生活用品のお届け、学校給食支援、漁業協同組合仮設事務所支援等多岐に渡る活動をおこなってまいりました。

2012年11月からはボストンのJapanese Disaster Relief Fund Bostonの支援により、福島県南相馬市の農業団体と農業再建のためのワークショップを行っています。



## グローバルフェスタに出展しました！！ @ 日比谷公園

毎年10月に日比谷公園で開催されるグローバルフェスタに今年も出展しました。(2012年10月6日・7日)

ブースでは、活動写真を展示したり、インドやケニアの手工芸品を販売しました。また今年は、インドの女性たちによる手づくりのカレースライスも販売し、見事に完売！！

また、福島支援のリンゴや梨も大好評で、学生さんが「僕は福島県出身なので。」とおっしゃって購入されたり、初日に梨を購入された方が、「おいしかったのでまた来ました」と次の日も買いに来ていただいたりしました。



世界各地のプロジェクトの写真を展示し、活動を紹介



通りがかる人に試食をすすめるスタッフのまきこさん

ご支援の  
感謝と  
お願い

## 日頃よりICAに対するご理解とご支援に 厚く御礼申し上げます。

私たちICAは世界で起きる自然災害、紛争、病気蔓延、自然環境保護、植林、貧困削減などの問題を住民と一緒に解決できるように心がけています。あなたも一緒に支援を届けませんか？あなたのご支援が世界の問題を解決することに役立てられます。ご協力のほどお願い申し上げます。

## 《 ご支援のお振込先 》

金融機関名：三井住友銀行 支店名：成城支店(222)  
口座番号：(普通) 3757300 口座名義：ICA文化事業協会  
※カタカナでお振込名を入力して下さい。

ICAの活動へのサポート  
ありがとうございます



TOYOTA



FUJI XEROX

NEC Empowered by Innovation

TOSHIBA  
Leading Innovation >>>

農業生産法人 ジーアールエー  
株式会社 GRA



AmeriCares



公益社団法人 日本和紙絵画芸術協会



### ☆お知らせ☆

バックナンバーはICAホームページでご覧いただけます。

<http://www.icajapan.org>

特定非営利活動法人  
ICA文化事業協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷4-1-22-2F  
TEL: 03-3484-5092 FAX: 03-3484-1909  
e-mail: [staff@icajapan.org](mailto:staff@icajapan.org)  
URL: <http://www.icajapan.org>